

2024年2月28日

2023年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士論文

実地指導者のリフレクション支援の実際についての認識と学習経験との関連
—— 質的記述的研究 ——

Exploring Practicum Instructors' Perception of Reflection Support and Its
Relationship with Learning Experiences: A Qualitative Descriptive Study

22MN021

中山 玲那

【要旨】

「目的」

本研究の目的は、リフレクションプログラム研修を受講した実地指導者のリフレクション支援の実際についての認識を明らかにすることである。また、研修における学びが実地指導者のリフレクション支援の実際へどのような影響を与えたかを考察する。

「方法」

本研究は、半構造化インタビューを用いた質的記述的研究である。リフレクションプログラム研修を開催している3病院を対象に研修責任者計3名、実地指導者計11名へインタビューを実施した。本研究にあたり、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承諾を得た(承認番号:23-A008)。

「結果」

研究協力の得られた3病院では、新人指導における指導者の困りごとを解決するためのリフレクションの学習、または他者の内省支援をするためのリフレクションの学習のいずれかを目的としたリフレクションプログラム研修を開催していることが明らかとなった。

また、病院ごとにデータを分析したところ、コードの単位で類似性を認めたため統合した。その結果、実地指導者はリフレクション支援の実際について【新人と指導者の相互の学びが促進されるプロセス】だと認識し、〔目的を見定め振り返りを行う〕〔振り返るための時間空間を確保する〕〔次の実践に向けた学びの伴走者になる〕〔新人の主体性と患者志向の行動を育てていると実感する〕〔新人看護師への関わりを模索する〕〔指導者として次に生きる学びを得る〕〔指導者の関わりが新人の思考の幅を左右することを心に留める〕の7つのサブカテゴリから構成されていることが明らかとなった。

「結論」

研修を受講した実地指導者は、リフレクション支援の実際について【新人と指導者の相互の学びが促進されるプロセス】と捉え、二重のリフレクション構造と認識していることが示された。今後、相互のリフレクションを促進するためには、実地指導者が省察的实践家となることが重要であり、個々人が研修内で用いたリフレクションツールを活用し、また組織側が研修評価やリフレクションツールをもとに対話できる機会を設けることが必要であると考えられる。